台湾の小学校
―入学前後からの一年―

岡崎幸司

愚息は昨年八月末、台北市のオフィス街にある公立小学校に入学した。拙稿では、豚児の通学先を主な具体例として、日本と異なると思われる点を中心に台湾の小学校を紹介したい。

ゆるやかな学区制

台湾の公立小学校でも学区が定められているが、親戚等の住所に住民票を移せば越境入学が事実上可能となる。日本で越境入学と言うと聞こえが悪いが、台湾では道徳的にも何ら問題はなく、当然のごとく行われている。

実際、愚息のクラスでは児童二十四名のうち、豚児を含め越境入学者が半数以上を占める。越境入学者が多い理由の一つは、夫婦共働きが一般的なため、子供を勤務先付近の小学校に入学させた方がとかく都合がよいからである。

越境入学が簡単にできるので、中学校の学区も考慮しつつ、住所を借りるなどして子供を評判の良い小学校に入学させようとする親が出てくる。孟母三遷の現代版である。しかしながら、小学校ごとに新入生の定員が決まっているため、親の思惑通りにいかないこともある。昨年の場合、台北市は四月二十五日を基準日として市内の国公立小学校を調査、五月五日付けの発表によると、市立敦化小学校をはじめ四校で定員を超過、市立博愛小学校など十四校が超過間近であった。定員超過（間近）となった背景はともかく、毎年、定員を超過した小学校では入学審査が実施され、超過間近の小学校に関しては基準日あるいはそれ以前から住民票をおいていた児童にのみ入学が許可される。これらの小学校への入学が叶わなかった児童は指定された小学校の中から入学先を選ぶことになる。

入学書類

愚息の入学先はごく普通の公立小学校であるため何事もなく、指定された日時に入学手続きを行うだけであった。入学手続きに際しては各種書類を提出しなければならず、その中の一つに「學生學籍資料表」というものがある。

學生學籍資料表は「學生基本資料」と「學生家庭資料」の二種類から成る。學生基本資料では児童の国籍・生年月日・連絡場所などを、學生家庭資料では父母と児童の関係、父母の国籍・教育程度・勤務先・職位・児童との関係、保護者の氏名などを詳細に記入する。小学校としては教育上必要なのであろうが、あれこれ詮索されているようで複雑な気分になった。

児童数と授業…少子化と多様化

豚児の同期生は約二四〇名、十クラスである（今年度の新入生は九クラス）。少子化に加え、ここ数年続いている不動産価格上昇の影響で学区内への転入者が増えないためであろうか、六年前の十五クラスから激減している。

台北市の公立小学校は週休二日制の二学期制を採用、一学期の授業日数は二十一週である。愚息が通学する小学校の登校時間は、毎朝七時三十分から五十分までで、この間に教室に入らなければならない。三回遅刻すると保護者は理由を説明するよう求められる。

授業は火曜日以外は正午まで、火曜日は午後四時まで行われた。既述のように台湾では夫婦共働きが普通であるため、放課後は「安親班」と呼ばれる託児所で授業の復習や宿題をしたりして過ごす児童が多い。夕方以降、帰宅途中の親あるいは祖父母などが児童を迎えに行く。安親班には小学校開設のものと民間のものがある。各公立小学校の安親班は放課後に児童が移動しなくてもよいという利点はあるものの、応募者が一定数に達しないと開設されないうえ、長期休暇中は閉鎖されるので、小学校の近くにある民間の安親班に通

う児童が多数派と思われる。また、夕方まで児童の面倒をみる私立小学校に子供を入学させる親も少なからずいる。

授業科目は日本の小学校一年生とあまり変わらないが、語学教育はかなり異なる。国語（日本で言う中国語）のほか、母語一科目と英語が必修であり、母語・英語についても中間試験・期末試験の両方が実施される。母語は閩南語と客家語の中から一つを選択、選択科目として原住民の言語を学ぶこともできる（選択科目なので試験はない）。閩南語はもともと中国福建省で話される言語の一つで、台湾ではとりわけ中南部でよく使われる。客家語は文字通り客家の人たちが話す言葉である。閩南語にせよ客家語にせよ中国語とは発音などが大きく違う。

英語の先生は、今年九月現在、小学校全体で十二名、うち少なくとも二名は米国留学者（修士・学士各一名）である。台湾の大学院修了・大学卒業の先生だけでなく、英語圏で学位を取得した先生も英語教育に携わっている。

なお、相当数の公立小学校が勉強や体育などが得意な児童向けに「資優班」、「體育班」をはじめとする特別クラスを設け、一般のクラスとは少々異なる内容の授業を提供している。

競争社会の小学校

台湾の小学校は全般的に競争社会であり、分野に関係なく成果を出した児童は表彰される。筆者の知る限り、学業面では毎学期末、クラス単位で成績上位十名が発表され、上位五名には校長名の賞状が授与される。中には賞状とともに賞品を配る小学校もある。運動会でも各競技で一位以下の順位がつけられるし、芸術方面のコンテストでも同じである。表彰（賞状）は児童にとって良い刺激になっている。

その他、豚児の通学先では、毎学期各クラスから台北市模範児童、小学校模範児童が選ばれる。台北市模範児童にはトロフィーが、小学校模範児童には賞状が渡される。模範児童以外にクラス代表・副代表の選出も行われる。

さらに、「小老師（小先生）」（国語・算数・英語などの科目ごと）、「體育股長（体育隊長）」、「環保小尖兵（教室清掃と廃品回収の責任者）」などが一名ないし数名任命されることもある。少なくとも豚児のクラスを担当している先生は、児童一人一人の長所を斟酌しつつ、特定の児童に集中しないようにバランスよく任命、児童の学習意欲や責任感を高めている。

通知表と成績評価

学期末の通知表は担任の先生が作成、訓導（学務）主任・教務主任・校長の確認を経て各児童に渡される。内容は、日常生活（団体行動をはじめとする平素の行いと出欠状況）、成績評価、担任の先生による評価と助言、その他通知事項（健康状況・新学期開始日）である。

素行については具体的な行為や事実が五行程度で簡潔に記されるほか、賞罰があった場合はそれも記載される。成績評価は、①語学（国語・母語・英語の三科目）、②算数、③生活（生活・音楽の二科目）、④健康と体育（健康・体育の二科目）、⑤総合活動、の五分野について、分野全体・科目別の総合評価が五段階で行われる。さらに、科目ごとに数個の学習目標が設定されており、各学習目標に対して五段階評価が実施される。担任の先生による評価と助言は学業成績だけでなく日常生活も対象となる。

保護者と小学校

保護者がボランティアとして積極的に小学校の活動に協力するのも台湾の特徴であろう。愚息の通学先での例を挙げると、毎週月曜日の朝は保護者と児童が協力して校内清掃・ゴミの分別回収を行う。職員会議で担任の先生が不在となる金曜日のホームルームは保護者が児童に昔話などを聞かせる朗読会になっている。

小学校は保護者会を開催するほか、教育関係者を講師に招いた入場無料の講演会を毎学年度数回、平日の夜か土日に実施している。保護者会は言うまでもなく、ボランティア活動や講演会に参加する保護者は多い。愚妻は月曜日の清掃・廃品回収の常連であり、仕事に支障がなければ朗読会や講演会にも出席する。筆者も保護者会などに参加するよう誘われるが、中国語ができないため遠慮している。語学音痴は何かと不便である。

（おかざきこうじ　中華大学）